



耕うん機
F401・501
取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただきました販売店にお気軽にお申しつけください。

一般公道でのトレーラー走行はできません。
(本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。)

夜間作業はできません。
(本機は作業灯が装備されていません。)

取扱説明書について

この取扱説明書は

- ・作業をするときは、必ず携帯してください。
- ・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡してください。
- ・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。



e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証しです。具体的には、世界トップレベルの環境技術を投入した汎用製品に表示しています。



本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の実操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう	4
安全ラベル	9
サービスと保証について	11
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	12
エンジン スイッチ	14
エンジン回転調整レバー	14
主クラッチ レバー、クラッチ固定レバー	15
変速レバー	16
始動グリップ	17
チョーク レバー	17
燃料コック レバー	18
ハンドル高さ調整レバー	
[F401/F501: KCタイプ]	18
ハンドル固定レバー[F501: K, KAタイプ]	19
ヒッチ ボックス(作業機取付け部)	20
ドラッグ バー(抵抗棒)	20
エンジン キル スイッチ	
[F501: K, KAタイプ]	21
作業前に点検・調整しましょう	22
作業前の点検	22
ガソリンの点検	23
エンジン オイルの点検	25
エア クリーナ(空気清浄器)の点検	26
変速機オイルの点検	27
ハンドル固定レバー[F501: K, KAタイプ]	28
・ハンドル高さ調整	28
・ハンドル角度調整	29
ハンドル高さ調整レバー	
[F401/F501: KCタイプ]	29
ドラッグ バー(抵抗棒)の調節	30

エンジンのかけかた	31
運転操作のしかた	35
変速	35
・変速レバー	35
運転	37
・主クラッチ　レバー	37
・クラッチ固定レバー	38
・エンジン回転調整レバー	39
エンジンのとめかた	40
定期手入れを行いましょう	43
やさしい点検・整備	44
エンジン　オイルの交換	44
エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃・交換	46
点火プラグの点検・調整・交換	47
エンジン回転調整ケーブルの点検調整	48
主クラッチ　ケーブルの調整	49
燃料ろ過カップの清掃	50
駆動ベルトの調整	51
長期間使用しないときの手入れ	53
故障のときは	54
主要諸元	55

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運動ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機を使用させないでください。特に子供には絶対に操作させないでください。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

● 作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジン スイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
 - ・ 急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
 - ・ 傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
 - ・ 傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分におとし、周囲に注意してサイド クラッチを使用しないで、ハンドル操作で行ってください。

警告

- ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
- ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。
- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
 - ・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
 - ・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- 爪(ロータ)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
 - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
 - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
 - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
 - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすくまた気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
 - ・ 燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
 - ・ 燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
 - ・ ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。
- **作業が終わったら**
 - 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
 - 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
 - エンジン上部に物をのせないでください。
 - 停止後のエンジンとマフラ(消音部)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているのです、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
 - ボディカバー等をつける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

警告

●積み降ろしおよび運搬時

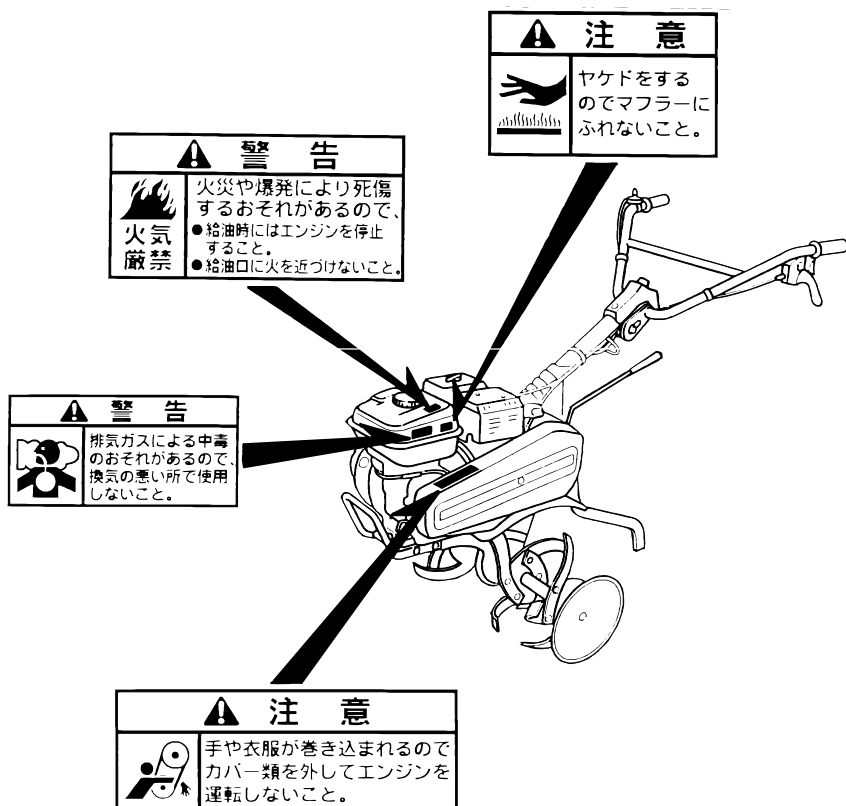
- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
 - ・ 荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
 - ・ 積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
 - ・ 積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
 - ・ 荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
- ロータを装備している場合は……
 - ・ 運搬時本機の燃料タンクおよびキャブレータの燃料を抜いてください。
 - ・ 必ず2人以上で持って、車の荷台に載せてください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



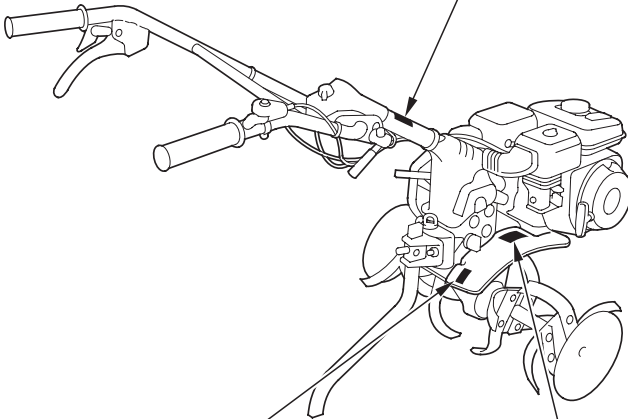
警告



死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

- 急発進防止のためエンジン始動時は、主クラッチを切り、すべての変速レバーを中立にすること。
- 点検整備時はエンジンを停止すること。

(F501: KAタイプ以外)



危険



回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。

警告



後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると、死傷のおそれがあるので、

- 後方に人や障害物がないことを確認すること。
- 車速を最低にしてエンジン回転数を下げること。
- ハンドルをしっかりささえること。
- クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れる様にする。

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。

農用トラクター（歩行型）

ホンダF401

（区分；K）

※ フレーム号機および銘板の表示

位置は13頁をご覧ください。

（参考：左の銘板はF401-Kタイプの物です）

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

認定番号

安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

型式名	安全鑑定適合番号
ホンダF401	16042
ホンダF501	16043

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

[F501: K, KAタイプ]

エンジン キル スイッチ

エンジン
スイッチ

ハンドル固定レバー

エンジン回転調整レバー

エア クリーナ(空気清浄器)

マフラ

エンジン スイッチ

燃料給油キャップ

変速レバー

右側

後方

エンジン オイル
給油キャップ

ドラッグ バー(抵抗棒)

前方

ベルト カバー

左側

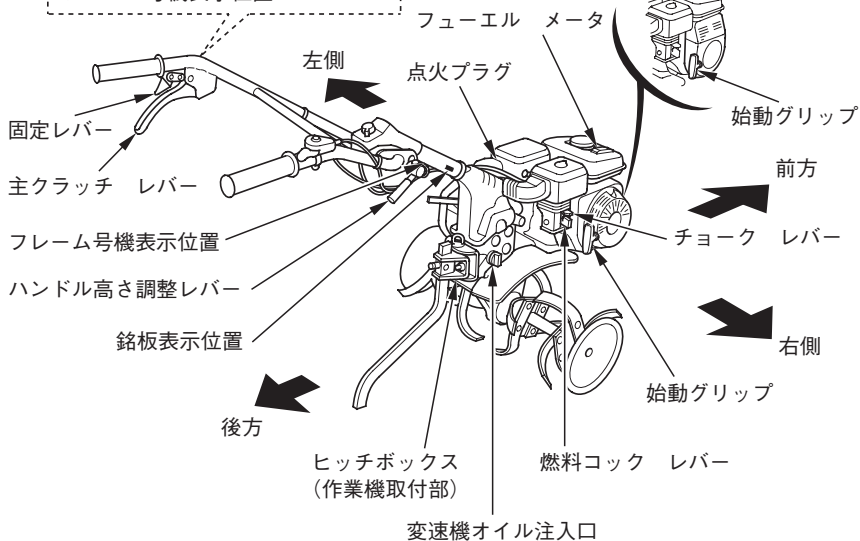
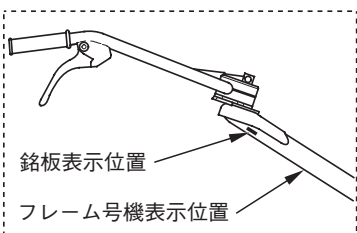
爪(タイン)

*ロータ

[F401/F501: KCタイプ]

*ロータはタイプにより設定されています。

[F501: K, KAタイプ]



[F401/F501: K, KAタイプ]

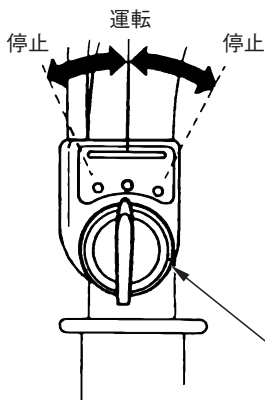
エンジン スイッチ

エンジン スイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。

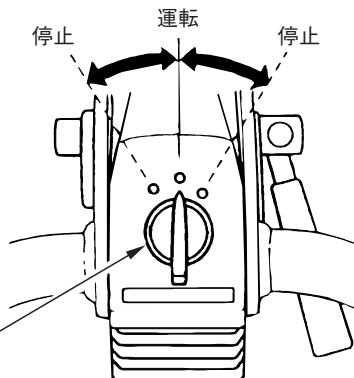
[F501: K, KAタイプ]

[F401]

[F501: KCタイプ]



〈ハンドル右側〉



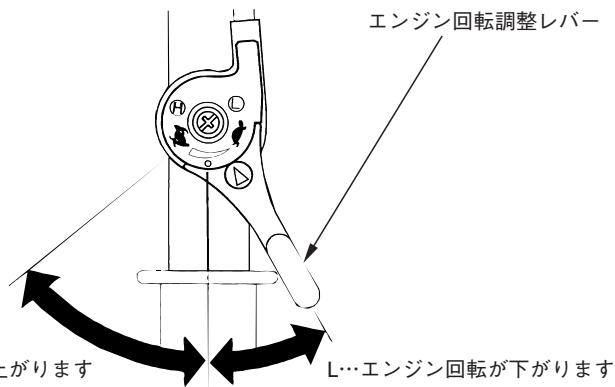
〈ハンドル コラム中央〉

エンジン スイッチ

エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。

エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



エンジン回転調整レバー

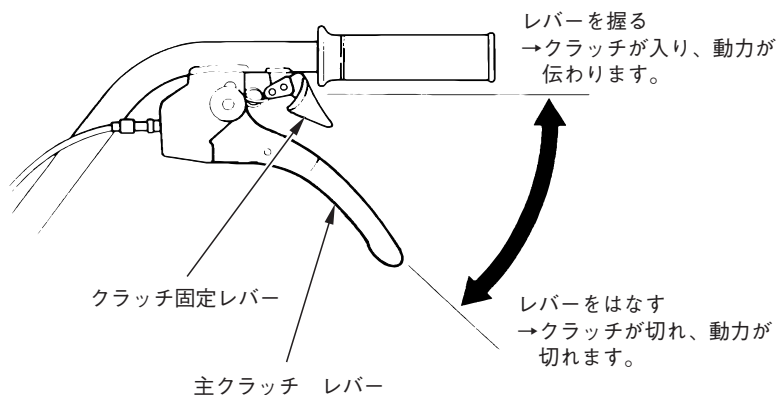
H…エンジン回転が上がります

L…エンジン回転が下がります

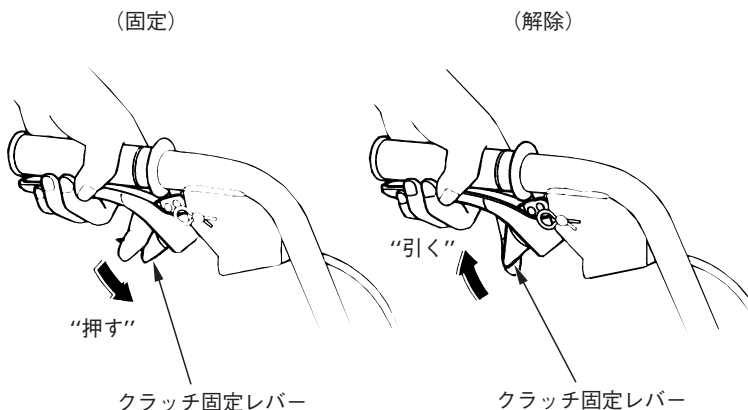
始動…エンジンを始動するときの位置です

主クラッチ レバー、クラッチ固定レバー

主クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。

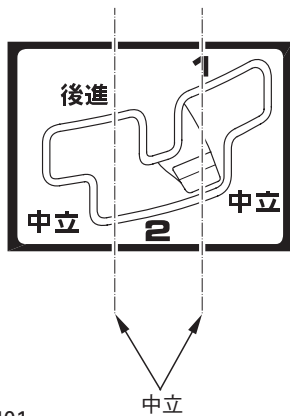
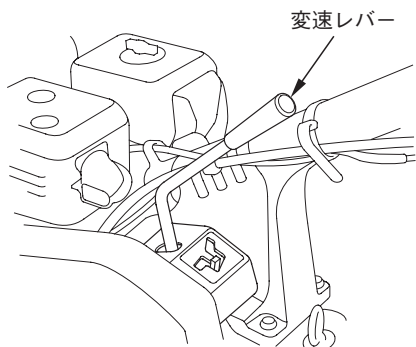


- 主クラッチ レバーを握ってクラッチ固定レバーを指で押すと主クラッチ レバーは固定されます。
- 解除するときは、クラッチ固定レバーを手前に引き、主クラッチ レバーをはなします。



変速レバー

本機の速度を変えるときに操作します。



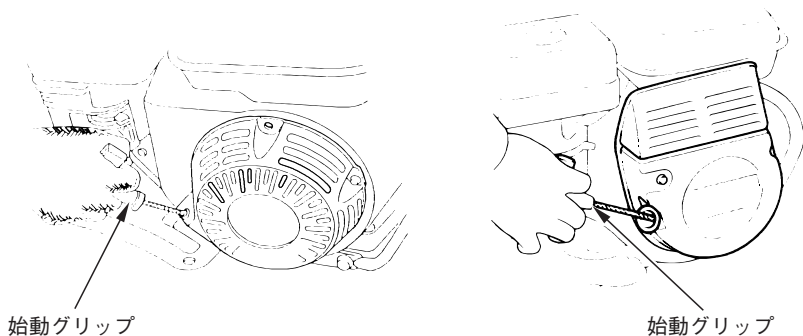
F401

F501

・・・変速は前進2段、後進1段です。

始動グリップ

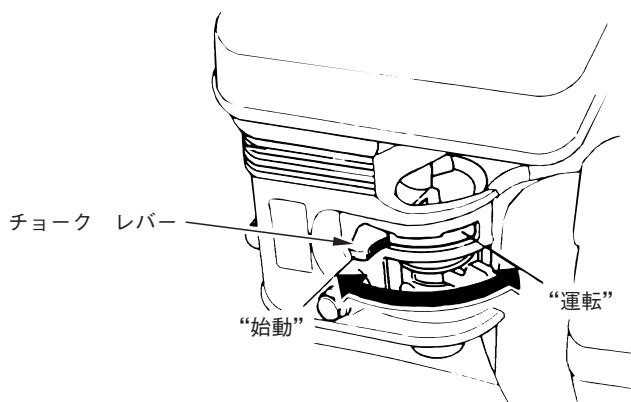
エンジンを始動するときに操作します。



[F401/F501: KAタイプ]

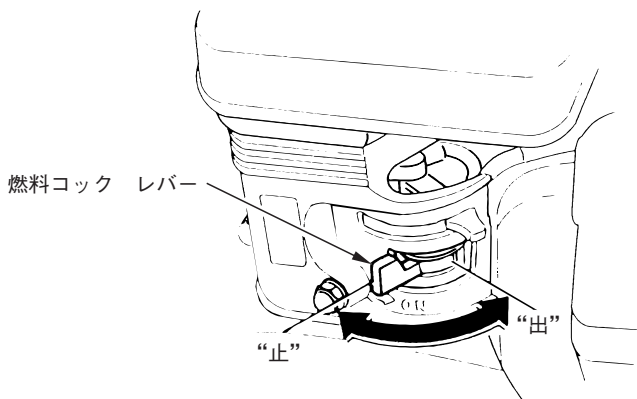
チョーク レバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



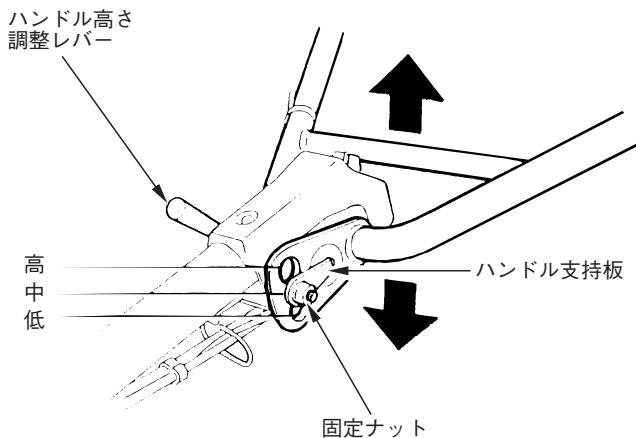
燃料コック レバー

燃料コック レバーは、タンクのガソリンを出したり止めたりするときに操作します。



ハンドル高さ調整レバー [F401/F501: KCタイプ]

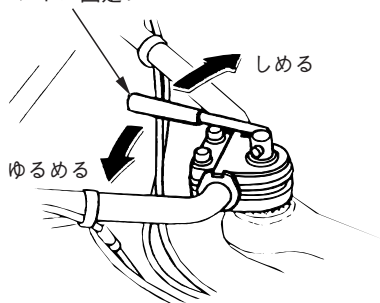
ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるレバーです。



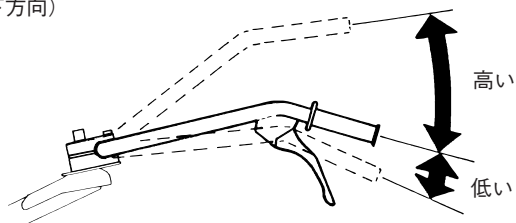
ハンドル固定レバー [F501: K, KAタイプ]

ハンドル高さと、ハンドル角度を作業内容、運転者の身長に合わせるレバーです。

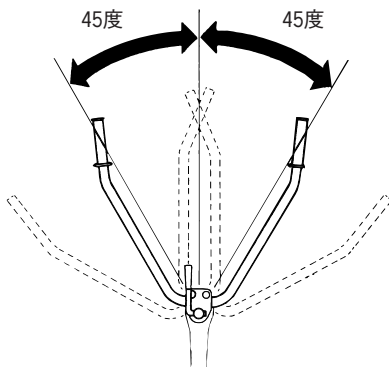
ハンドル固定レバー



ハンドル高さ(上下方向)



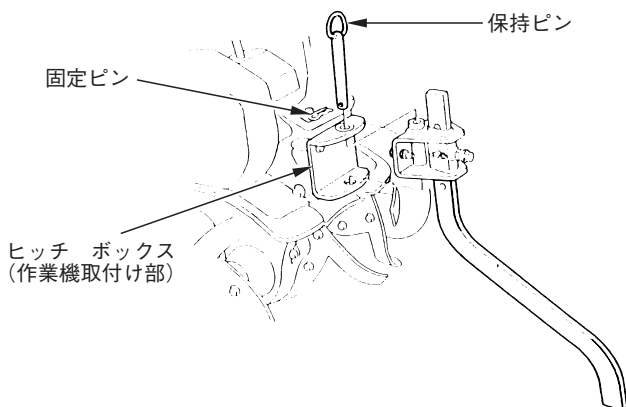
ハンドルの角度(左右方向)



ヒッチ ボックス(作業機取付け部)

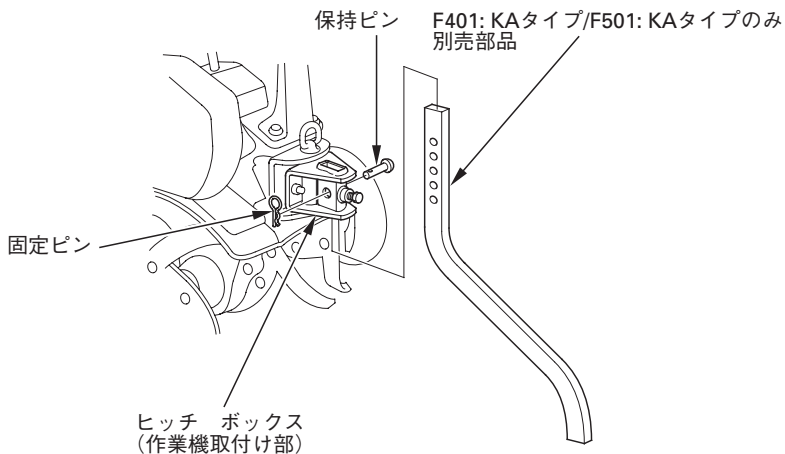
作業機を取付けるところです。

取付けは、保持ピンを差し込みます。保持ピンは固定ピンで固定します。



ドラッグ バー(抵抗棒)

耕うん深さを調節するとき、ドラッグ バーを上下させて調節します。

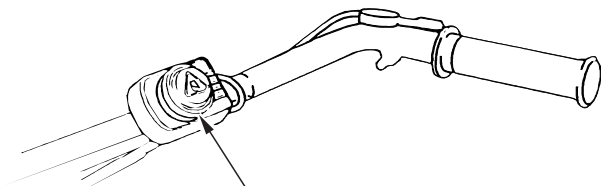


エンジン キル スイッチ

[F501: K, KAタイプ]

運転中、緊急にエンジンを停止したい場合に使用します。

エンジン キル スイッチは押すだけでエンジンが停止できます。



エンジン キル スイッチ

作業前に点検・調整しましょう

⚠ 警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……………燃料の量(23、24頁参照)、オイルの量(25頁参照)は規定量入っていますか。
燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- レバーの作動……………レバーの遊び量(48、49頁参照)は規定どおりですか。
引っかかりはないですか。
スムーズに作動しますか。
- 各部の締付け……………ハンドル固定レバー、ハンドル高さ調整レバーにゆるみ、がたはないですか。
ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……………被覆のやぶれ、切れはないですか。
配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止…エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は31～34頁参照)
エンジン スイッチで確実に停止しますか。
(停止手順は40～42頁参照)
エンジン キル スイッチで確実に停止しますか。(停止手順は40頁参照)
- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

ガソリンの点検

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。

本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。

- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。

ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。

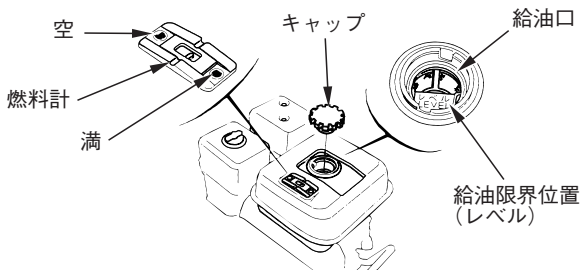
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。

- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

本機を水平にし燃料計で燃料の量を点検します。

少ない場合は補給してください。



補給

使用燃料：自動車用無鉛レギュラー ガソリン

タンク容量：F401... 1.4ℓ F501... 2.6ℓ

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。

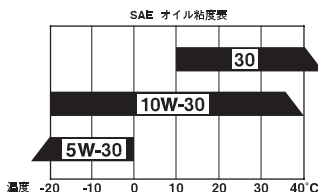
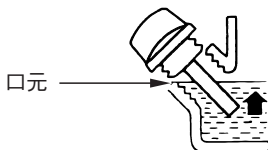
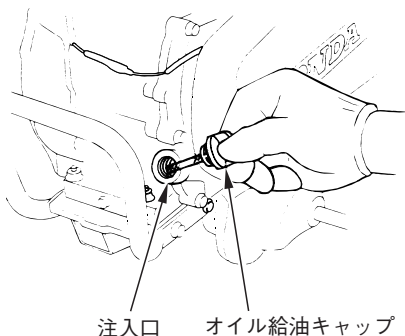
取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラー ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エンジン オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



補給

- 少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください(交換時期、方法は44、45頁参照)補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：(4サイクル ガソリン エンジン オイル)

Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン オイル量：0.6ℓ

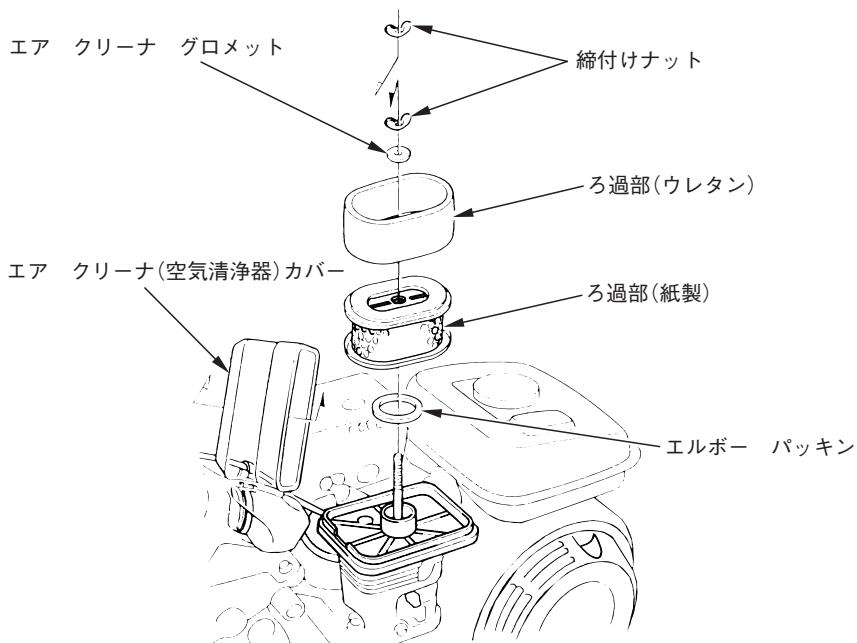
取扱いのポイント

- 低温時(気温10°C以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア クリーナ(空気清浄器)の点検

エア クリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。

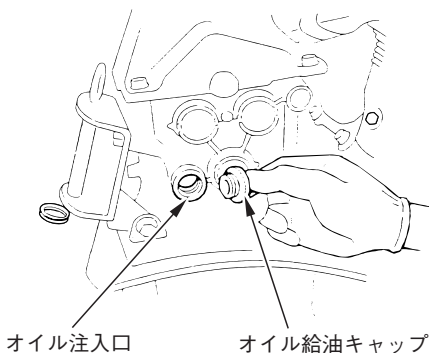
汚れている場合は清掃してください。(清掃時期、方法は46頁参照)



変速機オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。少ない場合は補給してください。

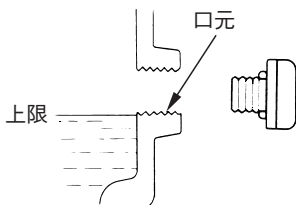


補給

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイル
をご使用ください。

変速機オイル量：0.95 ℓ

- オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは確実に締付けてください。



取扱いのポイント

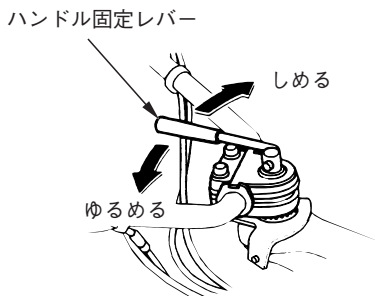
- 低温時(気温10°C以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

ハンドル固定レバー [F501: K, KAタイプ]

ハンドル高さ調整とハンドル角度調整は、ハンドル固定レバーを3～4回転させてゆるめることにより、任意の位置へ調整することができます。調整後はハンドル固定レバーを確実に締付けてください。作業内容、運転者の身長に合わせて使用ください。

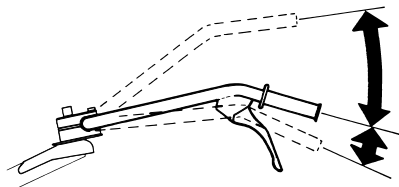
⚠注意

- 調整後、ハンドル固定レバーを確実に締付けてください。締付けがゆるいと作業中ハンドルが不意に動き思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 調整はエンジンを停止して行ってください。



ハンドル高さ調整：(上下方向)

ハンドル固定レバーをゆるめ、ハンドルを任意の高さに調整してください。

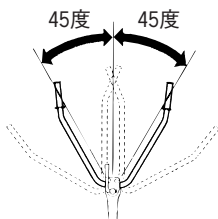


取扱いのポイント

ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

ハンドルの角度調整：（左右方向）

作業内容によりハンドルの角度を調整する場合には、ハンドル固定レバーをゆるめ、図のように左右45°以内で調整することができます。



ハンドル高さ調整レバー [F401/F501: KCタイプ]

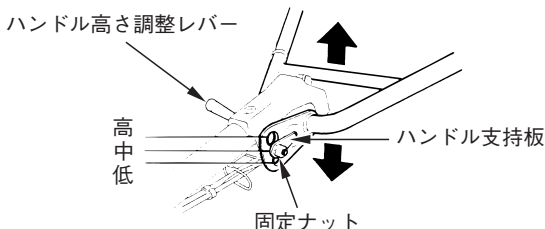
ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるときに使用します。

⚠注意

- 調整後、ハンドル固定レバーを確実に締付けてください。締付けがゆるいと作業中ハンドルが不意に動き思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 調整はエンジンを停止して行ってください。

調整のしかた

ハンドル高さ調整レバーを回しながらゆるめ、ハンドルを上下移動し、固定ナットを任意の穴へ移動しハンドル高さ調整レバーを確実に固定します。



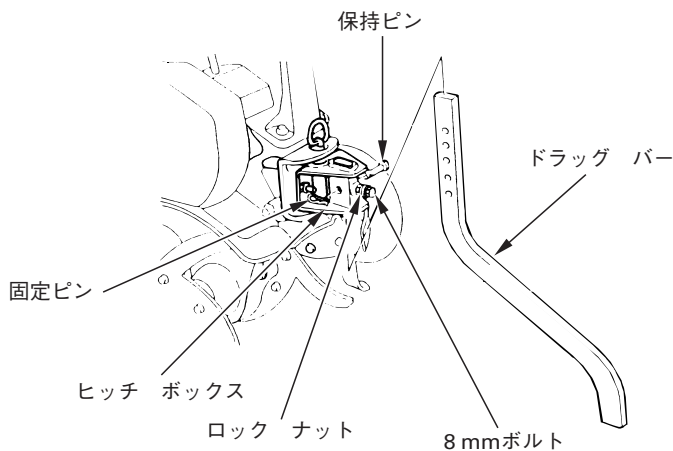
取扱いのポイント

ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

ドラッグ バー(抵抗棒)の調節

耕うん深さを調節するとき、ドラッグ バーを上下させて調節します。
調節

1. ロック ナットをゆるめ、8 mmボルトをゆるめます。
2. 固定ピンを外して保持ピンを抜き、ドラッグ バーを任意の穴位置に合わせ、保持ピンを差し込み固定ピンで固定します。
3. 8 mmボルトを締付けロック ナットで固定します。

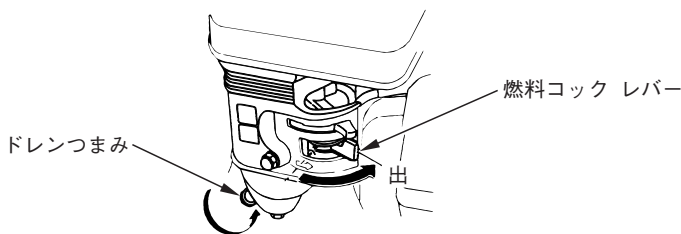


エンジンのかけかた

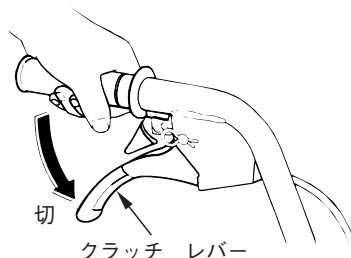
⚠ 警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- クラッチ レバーが“切”、変速レバーが“中立”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

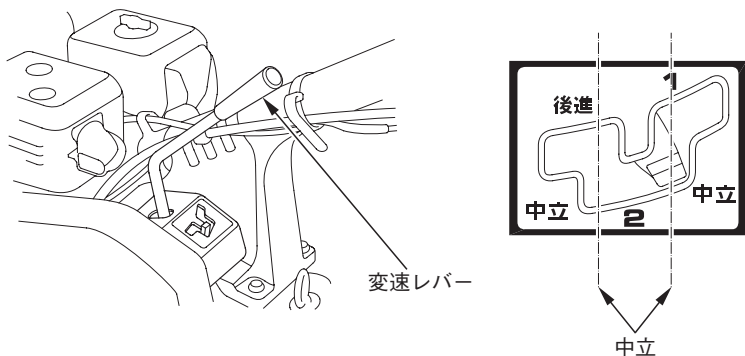
1. 燃料コック レバーを“出”の位置にします。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。



2. 主クラッチ レバーが“切”になっていることを確認してください。



3. 変速レバーが“中立”になっていることを確認してください。



4. エンジン スイッチを“運転”の位置にします。

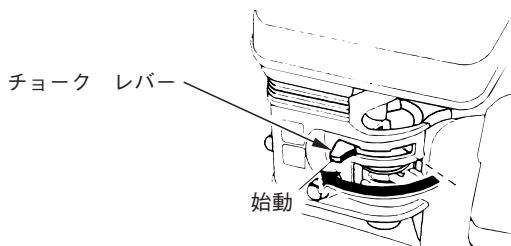
[F501: K, KAタイプ]

[F401]

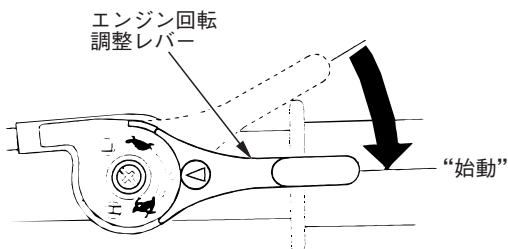
[F501: KCタイプ]



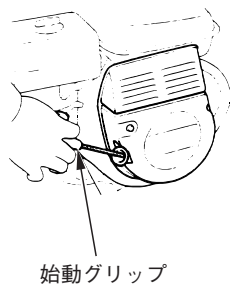
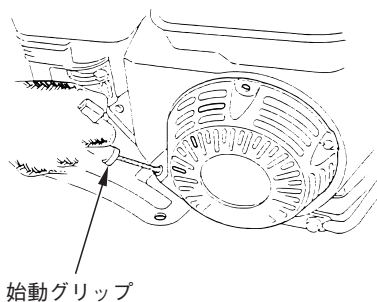
5. 寒いときやエンジンがかかりにくい場合には、チョーク レバーを“始動”の位置にします。



6. エンジン回転調整レバーを“始動”の位置に合わせます。



7. 始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



[F401/F501: KAタイプ]

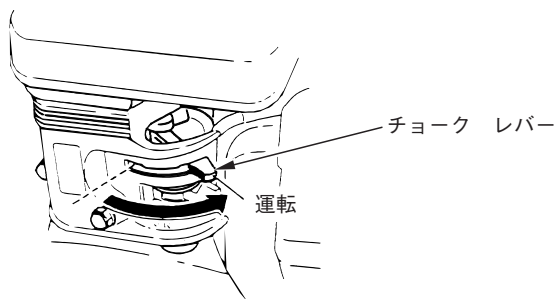
⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

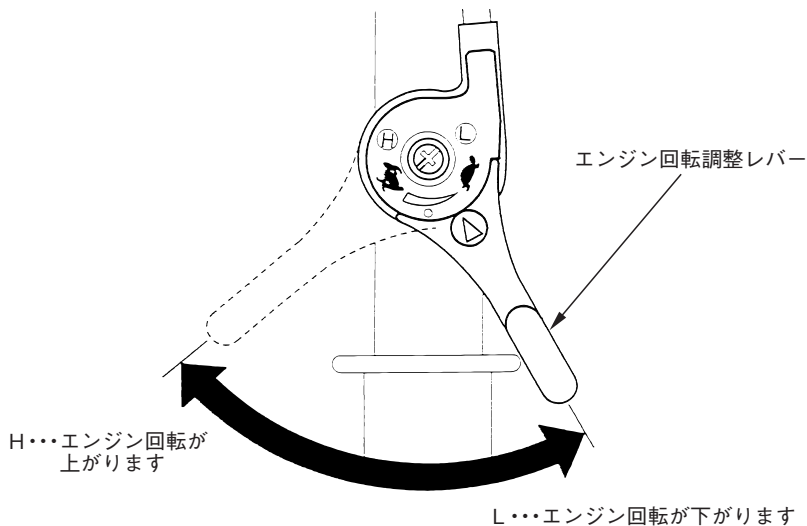
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

8. エンジンが始動します。
9. 2～3分間暖機運転を行います。チョーク レバーを“始動”にしたときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に“運転”の方向に戻します。



エンジン回転は、作業に応じて調整してください。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

変速

変速レバー

変速表の適応作業を目安に作業の状況に合せ適切な変速位置を選びます。(36頁参照)速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上がり等に弊害が出ます。

変速の要領

- 1) 変速レバーは、必ずクラッチを切ってから操作します。
- 2) 主変速レバーが作動しにくいときにはいったん主クラッチをにぎった後クラッチを切りもう一度操作します。
- 3) 後進の場合、特に足元や後方に十分注意し低速で運転してください。

⚠ 警告

後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。

- 後方に人や障害物がないことを確認してください。
- エンジン回転を下げてください。
- ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
- クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れるようにしてください。

運転

主クラッチ レバー

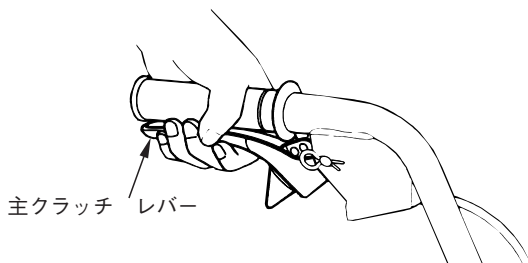
主クラッチ レバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

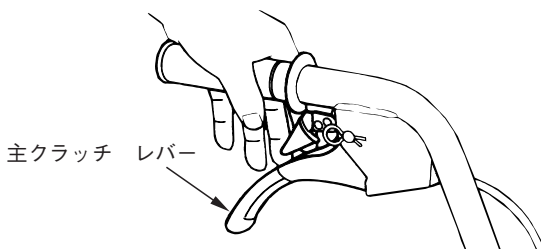
走行

主クラッチ レバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。



停止

主クラッチ レバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。



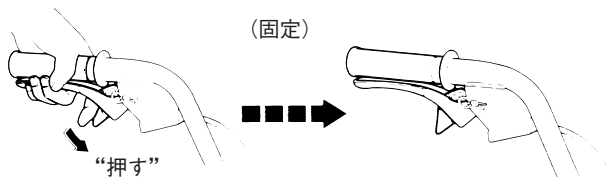
取扱いのポイント

主クラッチ レバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

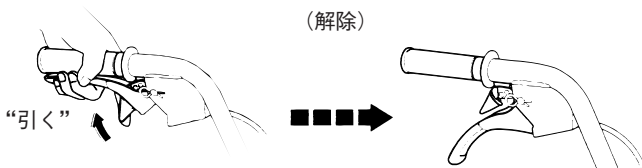
クラッチ固定レバー

クラッチ固定レバーを操作することにより、主クラッチレバーは握ったままの状態が保持できます。広い耕地や長時間使用するとき便利です。

- 主クラッチレバーの固定のしかた
主クラッチレバーを握ってクラッチ固定レバーを人差し指で押すと主クラッチレバーは固定されます。



- 主クラッチレバーの固定解除のしかた
解除するときは、固定レバーを人差し指で手前に引き、主クラッチレバーを放します。

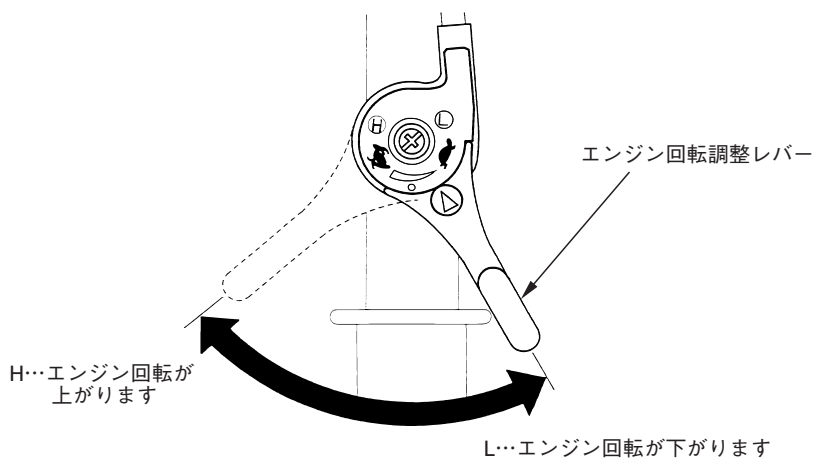


⚠ 注意

- 固定レバーは狭いハウス内、障害物のある耕地では使用しないでください。
ハウスや障害物に衝突し思わぬ事故の原因となります。
- 固定レバーを使用し作業を行うときは、状況に応じすぐ解除できる状態を保ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて調整してください。



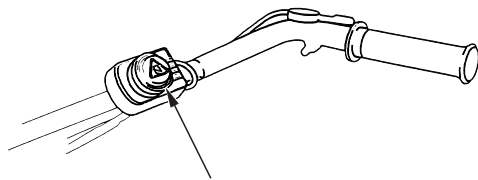
エンジンのとめかた

緊急停止の場合

[F501: K, KAタイプ]

エンジン キル スイッチを押すとエンジンが停止します。

エンジン キル スイッチを使用して緊急停止をした場合は、エンジン
スイッチを“停止”にし、主クラッチ レバーを切り、エンジン回転調
整レバーを“L”の位置に戻して、変速レバーを“中立”にしてください。



エンジン キル スイッチ

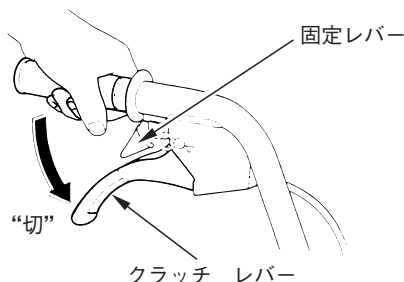
取扱いのポイント

通常のエンジン停止、保管点検時は、エンジン スイッチを“停止”
にしてエンジンを止めてください。エンジン キル スイッチは緊急
停止の場合に使用してください。

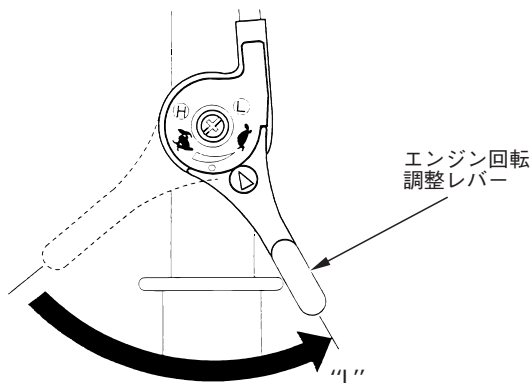
通常停止の方法

1. 主クラッチ レバーを“切”にします。

- 主クラッチ レバーが固定されている場合はクラッチ固定レバーを引いてから主クラッチ レバーをはなして“切”にします。



2. エンジン回転調整レバーを“L”の方向に戻し、エンジン回転を下げます。

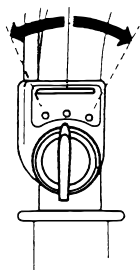


3. 変速レバーを“中立”の位置にします。(32頁参照)
4. エンジン スイッチを“停止”に合わせます。

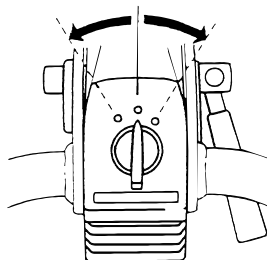
[F501: K, KAタイプ]

[F401]
[F501: KCタイプ]

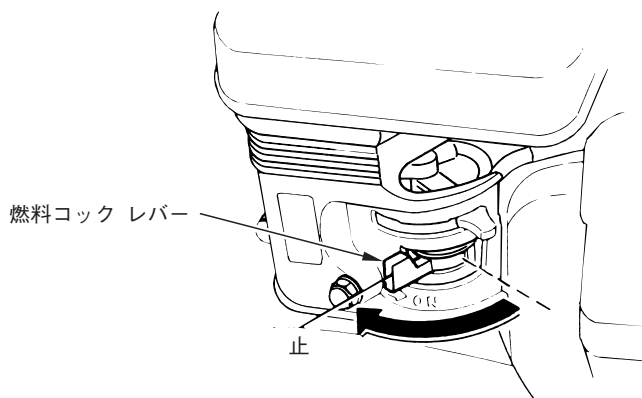
停止 停止



停止 停止



5. 燃料コック レバーを“止”に合わせます。



定期手入れを行いましょ

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょ。

点検項目	点検時間(2)	作業前 点検	初回 20時間 運転目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	1年に1回 又は300時間 運転毎
エンジン オイル<注1>	点検	○				
	交換		○		○	
エア クリーナ	点検	○				
	清掃			○(1)		
	交換					○
本機周りの点検	点検	○				
レバーの作動	点検	○				
各部の締付け	点検	○				
配線、ケーブル類	点検	○				
エンジンの作動	点検	○				
変速機オイル<注1>	点検		○			○
駆動ベルト	調整		○		○	
燃料ろ過カップ	清掃				○	
アイドル回転	点検-調整					○(3)
点火プラグ	点検-調整				○	
	交換					○
エンジン回転調整ケーブル	調整					○
主クラッチ ケーブル	調整		○		○	
吸入、排気弁のすき間	点検-調整					○(3)
燃焼室	清掃	500時間運転毎(3)(4)				
燃料タンク及びフィルタ	清掃				○(3)	
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(3)				

<注1>エンジン オイル…稼働期前にも必ず交換してください。

変速機オイル……稼働期前に汚れ具合を確認し、汚れがひどい場合はお買いあげ販売店で交換してください。

- (1) ホコリの多い所で使用した場合、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
- (2) 点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
- (3) 販売店またはサービス店で実施していただく項目です。
- (4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠ 警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップを取外して行ってください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》 初回：20時間運転日、以後：100時間運転毎。また、稼働期前には必ず交換してください。

《推奨オイル》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイル
をご使用ください。

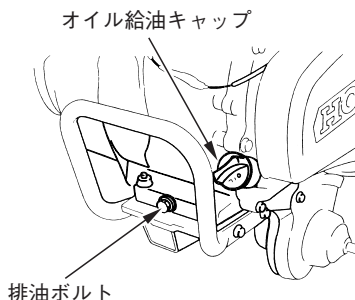
《エンジン オイル量》0.6ℓ

取扱いのポイント

- 低温時(気温10°C以下)では、Honda純正ウルトラU汎用SAE 10W-30のオイルをご使用ください。
- 寒冷時では、API分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30のオイルをご使用ください。

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、シリンダ バレルに確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エア クリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エア クリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

洗油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近づけないでください。火災を起こす可能性があります。

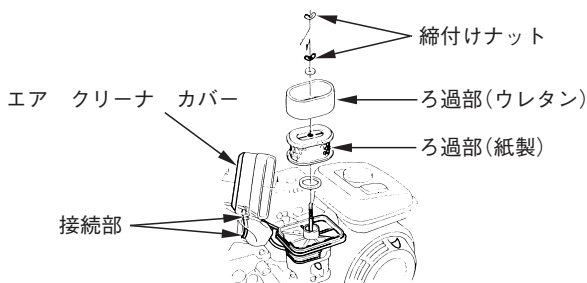
換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》 50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は、10時間運転毎または1日1回行ってください。

《交換時期》 1年に1回または300時間運転毎

1. 締付けナットを外し、図のようにエア クリーナ カバーを外し、ろ過部を取外します。
2. ろ過部(ウレタン)は洗油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。
3. ろ過部(紙製)は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. ろ過部、エア クリーナ カバーを確実に取付けます。



取扱いのポイント

- エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア クリーナ カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れたり、火花すき間が不相当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠️ 注意

エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検・調整時期》100時間運転毎

《交換時期》1年に1回または300時間運転毎

清掃のしかた

1. エンジンを停止し、点火プラグ キャップを
取外します。
2. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを清掃します。

点火プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落としてください。

調整のしかた

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

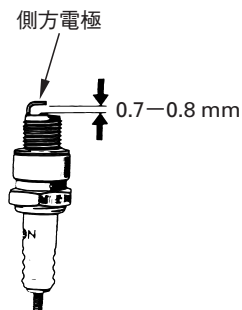
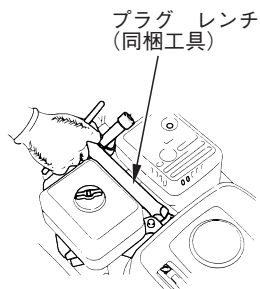
火花すき間：0.7－0.8 mm

《標準プラグ》

BP5ES (NGK) W16EP-U (DENSO)

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグ キャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。



エンジン回転調整ケーブルの調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

《調整時期》

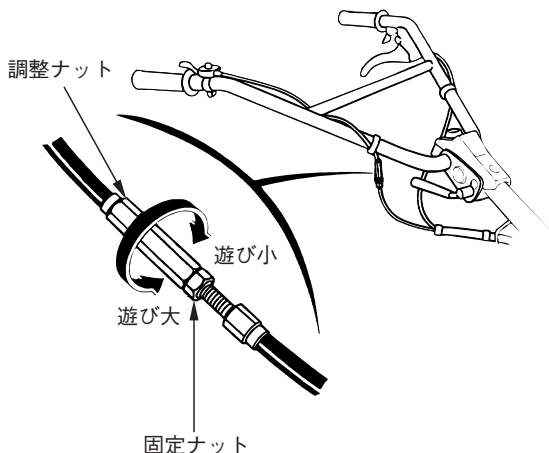
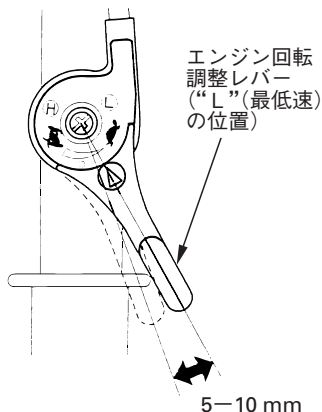
1年に1回または300時間運転毎

調整のしかた

1. エンジン回転調整レバーを“L”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。

遊び：5－10 mm

2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



主クラッチ ケーブルの調整

主クラッチ ケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったり駆動ベルトがすべったりします。

《調整時期》

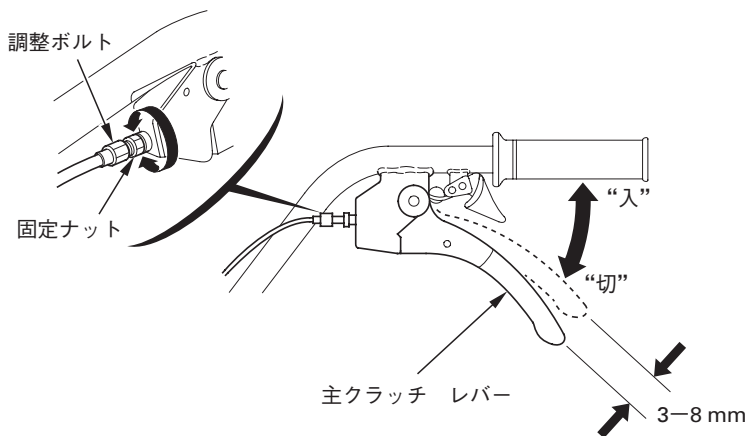
初回：20時間運転日、以後：100時間運転毎

《調整》

1. 主クラッチ レバーを“切”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。

遊び：3-8 mm

調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトを回して行います。



2. 調整後は固定ナットを確実に締付けてください。また、主クラッチレバーを数回“入”“切”し、再度遊びを確認してください。

燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

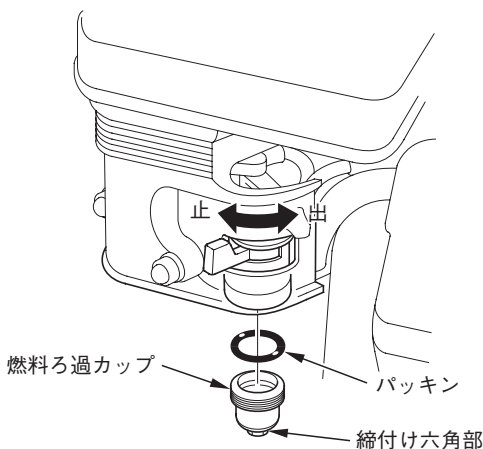
- ・火気を近づけないでください。
- ・燃料フィルタの取付け後、漏れがないか点検してください。
- ・ガソリンが周りに付いている場合は良くふき取り完全にかわしてからエンジンを始動してください。

《清掃時期》

100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. 燃料コック レバーを“止”にします。
2. 六角部を回してゆるめ燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、パッキンを元どおりに取付け、燃料ろ過カップを取付けます。
5. 燃料ろ過カップは、六角部を回して確実に締付けてください。
6. 燃料コック レバーを“出”の位置にし燃料の漏れのないことを確認します。



駆動ベルトの調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

⚠注意

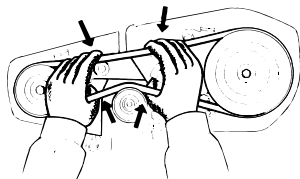
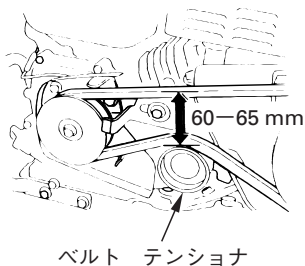
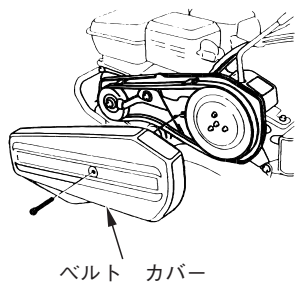
調整後は、ボルトは確実に締付けてください。ボルトがゆるみエンジンが脱落して思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

《調整時期》

初回：20時間運転目、以後：100時間運転毎

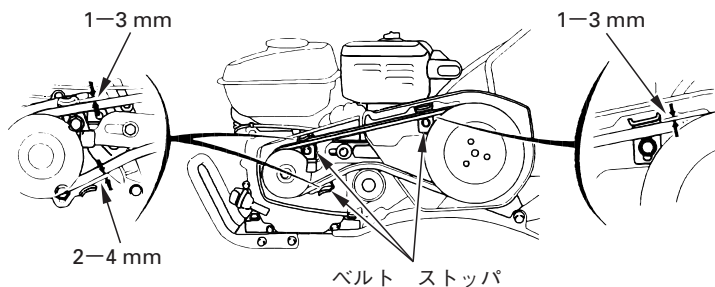
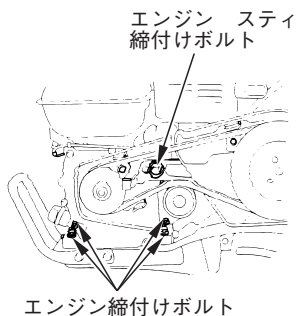
《点検》

1. ベルト カバーを取外します。
2. ベルトのすき間及びストッパーのすき間の調整はエンジンを“停止”させ点火プラグ キャップを外し、主クラッチ レバーを“入”にした状態で下図のように上下ベルトを両手で5～6回つまんでベルトとプーリをなじませてから規定の寸法になるか、点検します。
 - ・ ベルト間隔：60～65 mm
 - ・ 指定ベルト：Vベルト(SB37.5: F401 KA タイプ、F501)
(SB38: F401 K, KH タイプ)
3. 規定寸法外の場合は調整してください。



《調整》

- 主クラッチ ケーブルを調整します。
(調整方法は49頁参照)
- 調整はエンジン スティ締付けボルト、エンジン締付けボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行います。
規定寸法よりせまい場合…エンジンを前に動かします。
規定寸法よりひろい場合…エンジンを後に動かします。
- 調整後、ボルトは確実に締付けてください。
- 主クラッチ レバーを握った状態、またはクラッチ固定レバー使用の状態(クラッチが“入”の状態)で、ベルトとベルト ストップのすき間(3か所)が図の寸法になるか点検します。



- 規定寸法外の場合は調整してください。
- 調整はストップ締付けボルトをゆるめ、ストップを上下に動かして行います。
- 調整後、ボルトは確実に締付けてください。
- ベルト カバーを取付けます。

⚠注意

ベルト カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると手や衣類を巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ キャップをプラグから取外します。

⚠ 警告

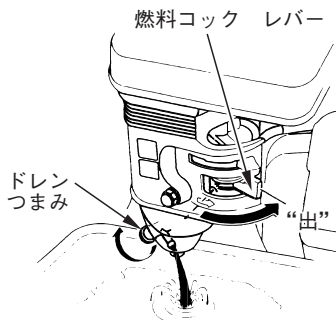
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。

1. 燃料タンク、キャブレター(気化器)内のガソリンを下記の要領で抜きます。

《抜き方》

- 1) 燃料コック レバーを“出”にします。
 - 2) キャブレターのドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を1~2回転ゆるめ、キャブレターと燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。
 - 3) 完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
 - 4) 燃料コック レバーを“止”にします。
2. エア クリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は54頁参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジン バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
4. クラッチ レバーを“切”にします。



取扱いのポイント

本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなる場合があります。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確認しましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか? (31～34頁参照)
2. ガソリンはありますか? (23、24頁参照)
3. エンジン オイルは注入口、口元までありますか? (25頁参照)
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか? (47頁参照)
 - 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確認しましょう

クラッチが作動しない時は次の点を確認しましょう

- 駆動ベルトの調整方法が取扱説明書通りですか? (51、52頁参照)

主要諸元

名	称	F401		
型	式	ホンダF401		
区	分	K	KH	KA
機 体 寸 法	全	長	1,320 mm	
	全	幅	635 mm	
	全	高	970 mm	
		ハンドル幅	635 mm	600 mm
全	装	備	重	量
			46 kg	36.5 kg
エ ン ジ ン	名	称	GX120K1	
	形	式	空冷4サイクル傾斜型ガソリン(OHV)	
	総	排	気	量
				118 cm ³
	定	格	出	力／回
				転
				速
				度
				2.1 kW (2.8 PS)/3,600 rpm (最大2.9 kW (4.0 PS)/4,000 rpm)
使	用	燃	料	
			自動車用無鉛レギュラー ガソリン	
燃	料	タン	ク	
			容	
			量	
			1.4 ℓ	
エ	ン	ジ	ン	
			油	
			油	
			容	
			量	
			0.6 ℓ	
点	火	方	式	
			トランジスタ マグネット点火	
始	動	方	式	
			リコイル スタータ	
ク	ラ	ッ	チ	
			方	
			式	
			ベルト テンション	
変	速	前	進	
			2 段	
段	数	後	進	
			1 段	
安全鑑定適合番号		16042		

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

主要諸元

名	称	F501		
型	式	ホンダF501		
区	分	K	KA	KC
機 体 寸 法	全	長	1,320 mm	
	全	幅	920 mm	600 mm
	全	高	1,000 mm	
		ハンドル幅	600 mm	
全	装 備 重 量	54 kg	40 kg	50 kg
エ ン ジ ン	名	称	GX160	
	形	式	空冷 4 サイクル傾斜型ガソリン(OHV)	
	総	排 気 量	163 cm ³	
	定	格出力/回転速度	2.9 kW (4.0 PS)/3,600 rpm (最大4.0 kW (5.5 PS)/4,000 rpm)	
	使	用 燃 料	自動車用無鉛レギュラー ガソリン	
	燃	料タンク容量	2.6 ℓ	
	エ	ンジン オイル容量	0.6 ℓ	
	点	火 方 式	トランジスタ マグネット点火	
始	動 方 式	リコイル スタータ		
ク		ラ ッ チ 方 式	ベルト テンション	
変	前	進	2 段	
段	後	進	1 段	
安		全鑑定適合番号	16043	

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

Honda汎用製品についてのご相談・ご意見は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

本田技研工業株式会社

お客様相談センター

全国共通フリーダイヤル

0120-112010

(受付時間

9:00~12:00

13:00~17:00)

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。

HONDA
The Power of Dreams

30733688
00X30-733-6880

© 2015 本田技研工業株式会社